



「中学校ではじめての運動会」

一年二組 大日方 亮祐

野木中学校では、9月13日(日)に運動会、10月24日(土)に潤心祭が感染症対策のため縮小して行われました。

「運動会を終えて」

運動会実行委員長 古内 瑚春

今年の運動会は、今までと違っていくつかの種目が減り、運動会自体も短縮となりましたが、野木中の皆はそれぞれの種目に励んでいました。本番では、練習や予行の時よりもさらに気合が入ったみんなの真剣な表情から、一人ひとりの運動会に対する意識の高さが伝わってきました。このような最高の運動会を成功させることができたのはたくさんの方々の支えがあったからです。本当にありがとうございました。この運動会に委員長として関わることができてよかったです。

「運動会でできた絆」

二年二組 竹内 彩耶菜

新型コロナウイルス感染症で学校行事が中止になる中、僕たち一年生にとってはじめての運動会。僕たち二組は、一生懸命練習をしました。時には、練習の中で、意見が衝突することもありましたが、最後は一致団結して、優勝することができたのでうれしかったです。

「最高の三年一組」

三年一組 畑山 凜音



私はクラスのみんなと仲良く協力し合うことができ、とても良い運動会だったと思います。運動は得意な人も苦手な人もいるけど、みんなで助け合ったり励ましあったりして運動会に臨みました。そうして運動会に向けて協力していくうちにどんどんクラスの絆が深まってきていると実感するようになりました。これからも残り少ない時間の中で、行事を通してみんなの絆がもっと深まると思います。

「感動の潤心祭」

生徒会長 丹羽 輝

野木中にとって一大イベントである潤心祭。今年はコロナ禍の影響で規模が縮小にな

り、去年とは違う新しい生活様式を取り入れた潤心祭となりました。今年のスローガンである「スポットライトを一人一人に」僕らで作る感動のステージを、実現させるために生徒一人一人が考え、協力し合い、潤心祭を成功へと導くことができました。各講座では限られた活動時間を最大限に活用できるようにみんなで意見を出し合い、様々な工夫を凝らして、今できることを考えてきました。例年通りでは無いからこそ団結して準備ができたと思います。

中止する学校もある中、時間を作ってくださいと先生方に感謝しています。盛り上がるか不安もありましたが、みんなの笑顔を見て胸がいつぱいになりました。

「今できる精一杯を」

生徒副会長 小野 わか葉

コロナ禍での潤心祭。しかしそれぞれの分野で頑張る野木中生の姿、感動を呼ぶものでした。熱演が人々を魅了した演劇。一糸乱れぬ動きと華麗なアクロバットを見せたダンス。熱を帯びたバチさばき

で力強い音を響かせた和太鼓。楽しい雰囲気会場を盛り上げた開閉会式とイベント。自分の課題に懸命に取り組んだ課題追究。思わず写真に収めたくなる階段アート。息を飲む美しさに完成されたビックアート。みんなのために駐車場の整備に取り組んでくれた校内美化。

みんなの頑張りがあったからこそ成し遂げられた潤心祭だったと思います。一人一人にスポットライトが当たった最高の潤心祭でした。

